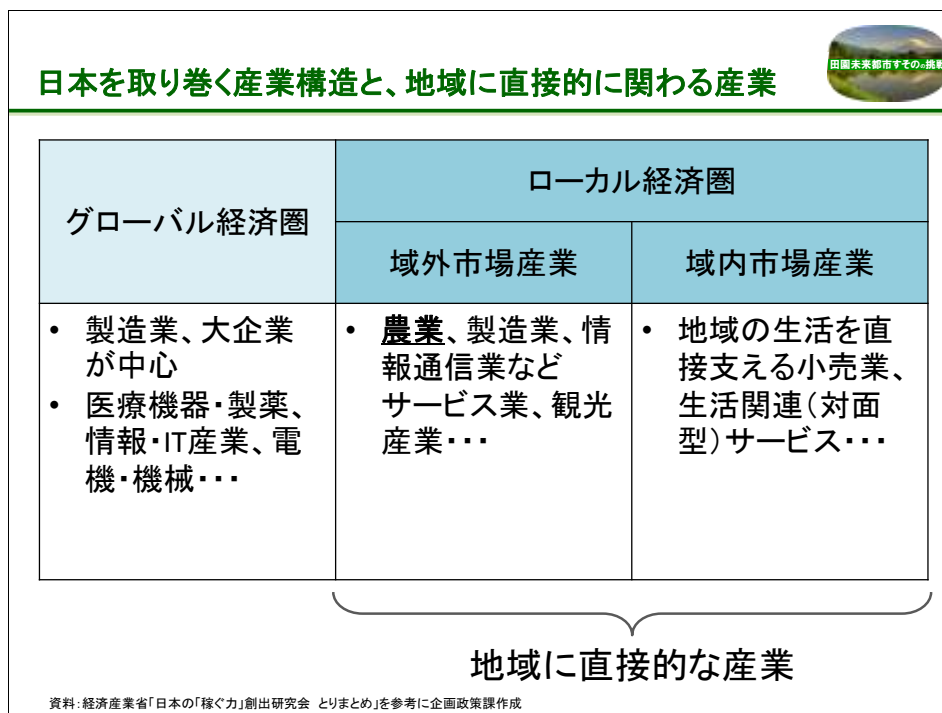
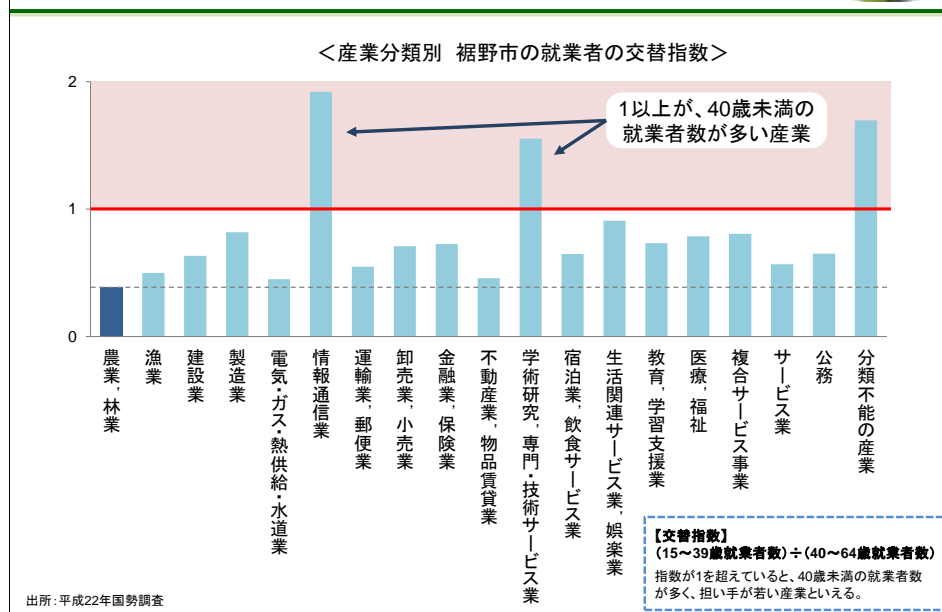


## 出張みらい会議「裾野市農業委員会」の報告

持続可能な地域づくりに向けては、地域産業の活性化が不可欠です。まち・ひと・しごと創生の取り組みの中でも、働く方々にとっても暮らす方々にとっても魅力的な地域づくりに向けて、地域資源を活かした裾野市らしい「稼ぐ力」を持つ産業創出を目標にしています。しかしながら、当市の産業を見てみると、多くの分野で就業者の高齢化が進行しています。



### 市内産業の高齢化は多くの業種で進んでいるが、中でも農業、林業は進行している



40歳未満の就業者数と40歳以上の就業者数を比べると、特に農業、林業分野では、40歳以上就業者の割合が最も高く、持続可能な産業づくりに向けては、新たな担い手の参画促進や産業自体の活性化を図る必要があります。そこで、裾野市農業委員会、出張みらい会議を開催しました。

## 開催要領

- 日時:平成 28 年 7 月 11 日(月)15:00～16:00(60 分)
- 会場:市役所 4 階 401 会議室
- 参加:農業委員 23 名

## 会議での問い

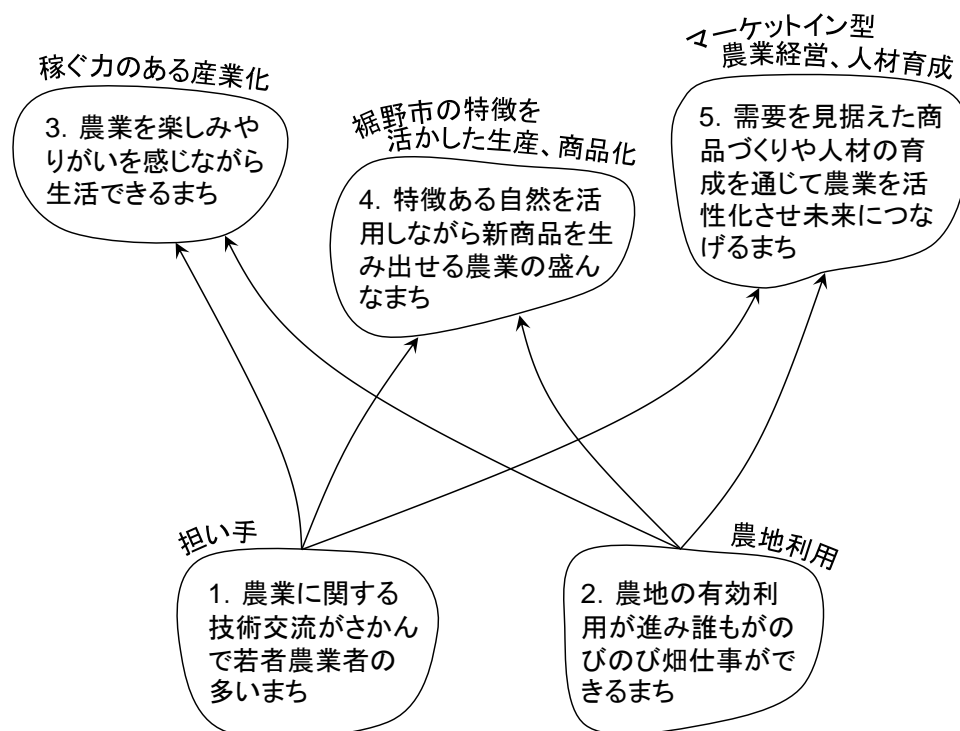
農業という産業において農業委員の皆さんがお感じの課題を出し合い、その上で、農業が裾野市の産業をリードするためにはどのようなまちであるべきかを考えました。

問い 農業が裾野市の産業をリードするためには??



## 会議で考えた“まちの将来像”

会議では、担い手支援、集積を踏まえた農地利用が必要であることと、それらを推進することで、農業の稼ぐ力を高めること、裾野市の地勢・特徴を生かした商品開発に取り組むこと、ただ生産するだけでなく、需要を見据えた商品開発や人材育成に取り組むことが必要であるとまとめました。



## 1. 農業に関する技術交流がさかんで若者農業者の多いまち

- 耕作放棄地増大
  - ・後継者問題
  - ・働きながら農業
  - ・若者が帰ってくる必要あり
- ソフト面
  - ・特産化に向けて技術者による指導
- 高齢化
  - ・兼業農家の後継ぎがない
  - ・農地面積が狭いため、大型機械化が困難
  - ・40歳未満が少ない
- 後継ぎ
  - ・農業する人が高齢
  - ・後継者がいない
- 高齢化
  - ・後継者の確保
  - ・跡取りがない
- 人
  - ・人口減少が影響している
  - ・後継者がいない
  - ・重労働、長時間労働
  - ・仲間が少ない
  - ・農業をしたいひとはいるが、魅力に乏しい
  - ・農業に対する若者の希望がない

## 2. 農地の有効利用が進み誰もがのびのび畑仕事ができるまち

- 圃場整備の必要性
  - ・耕地整理集団化がされていない
  - ・平坦地が少ない
  - ・所有面積が小さく経営が難しい
  - ・耕地の整備化
  - ・特産化の推進
- ハード面
  - ・設備投資への補助
  - ・設備投資できる環境
  - ・困ったときに補助金がすぐ出る
  - ・グループ化
- 土地
  - ・農地の集約が進んでいない
  - ・土地がやせている
  - ・田畑が少なく作業効率が悪い
  - ・須山富岡地区は農業用水が少ない
  - ・土地がやせている
  - ・30d以上でないとならば農業に参加できない
- ハード面
  - ・道の駅の設置
  - ・農地の基盤整備
  - ・やれるところから手を付ける
  - ・農地の集積
- 土地
  - ・土地がせまい

・耕作放棄地対策

## 3. 農業を楽しみやりがいを感じながら生活できるまち

- 希望が持てない
  - ・展望がみえない
  - ・農業での賃金では生活できない
  - ・農作物の販売ルートが少ない
  - ・農業計画ができていない
  - ・収穫した作物が安価のため所得が低い
  - ・機械が高い
- マインド面
  - ・農業への関心を高める
- 金
  - ・もうからない
  - ・農業器具が高価なため赤字
  - ・低所得
  - ・補助金でなんとかやりくりしている
- たりない
  - ・農協と農業者の援助不足
  - ・農業の楽しみ方をうまく伝えられない
  - ・農業体験ができる場所がない
  - ・販路の拡大ができない
- 利益
  - ・利益の確保が難しい
  - ・農業だけの収入では生活できない
  - ・材料費が高い
  - ・作るより買った方が安い現実
  - ・材料費が高い
- 畑のマイナスイメージ
  - ・畑そのものがせまい
  - ・農地の形態が悪い
  - ・害獣の増加
  - ・汚れる
  - ・農業労働は他産業に比較して重労働で、家族でやることが多い
  - ・耕作面積が少なく農業機械への投資が重荷となる
- 収入
  - ・天候によって左右される
  - ・農業だけでは生活できない
  - ・収入が少ない
  - ・サラリーマンの方が、苦勞がない
  - ・農業市場の衰退
- マインド
  - ・農家のモチベーションを市が刺激する
- 3K
  - ・農作のイノシシ、シカの食害
  - ・農業の肥料代の高騰
  - ・農薬の取り扱い
- 動物被害
  - ・イノシシ、シカ、サル対策
  - ・動物被害によりつくる意欲がなく

なる

## 4. 特徴ある自然を活用しながら新消費を生み出せる農業の盛んなまち

- 新たなとりくみ
  - ・富岡、須山は観光と農地(花)を融合する
  - ・よもぎを名産に
  - ・梅の里を中心に観光資源を活かす、花をもっと植える
  - ・販売ルートを強化する
  - ・そばの作付けに対する補助
  - ・鳥獣対策に対する補助
- 研究
  - ・長泉で行われている種や苗の研究
  - ・温室
- 作物
  - ・南方果樹を栽培
  - ・目玉の農作物の創作
  - ・他にない特産品をつくる
- 高いものをつくる
  - ・メロンを温室栽培
  - ・付加価値の高い作物営農指導
- 裾野の良いものを活用
  - ・水かよいのでうまく活用する
- 都市へ
  - ・東京に売り出すルートをつくる
  - ・複合化

## 5. 需要を見据えた商品づくりや人材の育成を通じて農業を活性化させ未来につなげるまち

- 協力
  - ・農作物の供給先と需要先を確保
  - ・農業者のグループを募り農作物を出荷
  - ・種類毎に法人化を図って苗作りからの効率をよくする
  - ・農産物の売却先の確保
  - ・害獣の駆除から食肉化までのシステムの整備
  - ・JA等の指導で作付面積を増やしたが、次の耕地の利用がわからなく、撤退していく
- 育成
  - ・農業に関する指導者、お助けマン
  - ・農業者を幼いころから勉強させる
  - ・裾野市とJAの農業経営指導者がいない
  - ・先進農業にふれる機会が少ない